

薬用植物の産地化に向けて本格始動



栽培を指導する草野理事長

加美町薬用植物研究会（工藤春男会長 会員6団体12個人）は、薬用植物の調査・研究を行い、試験栽培を通して、町の新たな特産品を目指すため、昨年11月に発足した。

今年4月27日、NPO法人「薬用植物普及協会みやぎ（草野源次郎理事長）」の指導のもと、昨年に引き続き、町内の山間部にある3カ所の試験ほ場で、2度目となるカンゾウ（ウラルカンゾウ・スペインカンゾウ）、ムラサキ、コガネバナの定植を実施した。

研究会では、概ね5年間の計画で町内の耕作放棄地を含めた環境の違う農地で各種の試験栽培を行い、町の気候風土に適した品種・品目を選定する予定だ。

試験栽培によって得られたデータなどを活用し、栽培マニュアルなどの作成、独自の試験栽培のほか製薬会社等との試験栽培を行い、いずれは製薬会社との契約に基づく本格的な薬用植物の生産を目指していく。



指導をした草野理事長は、「栽培する農家が少なく、漢方薬の原料国内自給率は12%程度しかないので、加美町で取り組んでもらえるのはありがたい」と、大きな期待を寄せていた。

【記事提供：加美町農業委員会】